

令和8年8月7日
15時30分

西日本高速道路株式会社

お知らせ

第1回 南九州自動車道妙見第一橋復旧に関する検討委員会の開催結果について

令和8年8月6日(木曜)に開催した「南九州自動車道妙見第一橋復旧に関する検討委員会」の開催結果について、別添のとおりお知らせします。

- | | |
|---------|-------------------------|
| 1. 日 時 | 令和8年8月6日(木) 13:30～15:55 |
| 2. 場 所 | ホテル大黒屋(熊本県八代市麦島西町 7-15) |
| 3. 結果概要 | 別紙1のとおり |
| 4. 委 員 | 別紙2のとおり |

南九州自動車道妙見第一橋復旧に関する検討委員会

第1回の結果概要

- ① 断層ずれの直接的な影響により、上下線ともに、橋脚が隆起・沈下し、また水平方向も変位が発生。その結果、隣接する橋脚間で1mを超える高低差、間隔差が複合的に発生し、橋桁、橋脚が損傷している。これは、日本において、これまで経験したことがない被災形態である。
- ② 桁の状況が極めて不安定なため、速やかに安全措置を行った上で、対策を進めていく必要がある。
- ③ 地震動や橋脚周辺の地盤についての調査も丁寧に行うことが必要である。また、橋脚の傾斜や基礎の変状の可能性を踏まえ、基礎の健全性調査が必要である。
- ④ 当該橋梁は、支承が壊れたとしても落橋しにくいように、橋脚上の幅を確保し、桁の移動を妨げるために桁同士の連結や、突起の設置を行っていた。これらの対策が今回については結果的に一定の効果があつたものと考えられる。なお、実際の挙動については詳細な調査が必要である。
- ⑤ 縦断に大きな変位がある中、連続高架橋、トンネルとの擦り付けが必要となる困難な復旧となることに十分留意する必要がある。
- ⑥ 阿蘇大橋の落橋後の復旧は地震による揺れだけではなく、被災の分析から想定された活断層による地盤の変位を考慮し、容易に落橋しないように、橋の形状や支間割等が検討された事例であり、こうした経験も踏まえて検討をしていただきたい。
- ⑦ 再度同じような断層による地表付近の変位や地震による揺れを受けることも想定し、調査結果も踏まえ復旧しやすくなるような構造上の工夫について検討していくことが必要である。

以上

南九州自動車道妙見第一橋復旧に関する検討委員会 委員名簿

いしだ まさひろ
石田 雅博
土木研究所 構造物メンテナンス研究センター
橋梁構造研究グループ長

う さ み おさむ
宇佐美 惣
株式会社高速道路総合技術研究所 道路研究部
橋梁研究担当部長

おかだ た か お
岡田 太賀雄
国土交通省 国土技術政策総合研究所
道路構造物研究部 橋梁研究室長

なかむら しょうぞう
中村 聖三
長崎大学 大学院工学研究科
システム科学部門 教授

○ まつだ たい じ
松田 泰治
九州大学 名誉教授
熊本大学 名誉教授

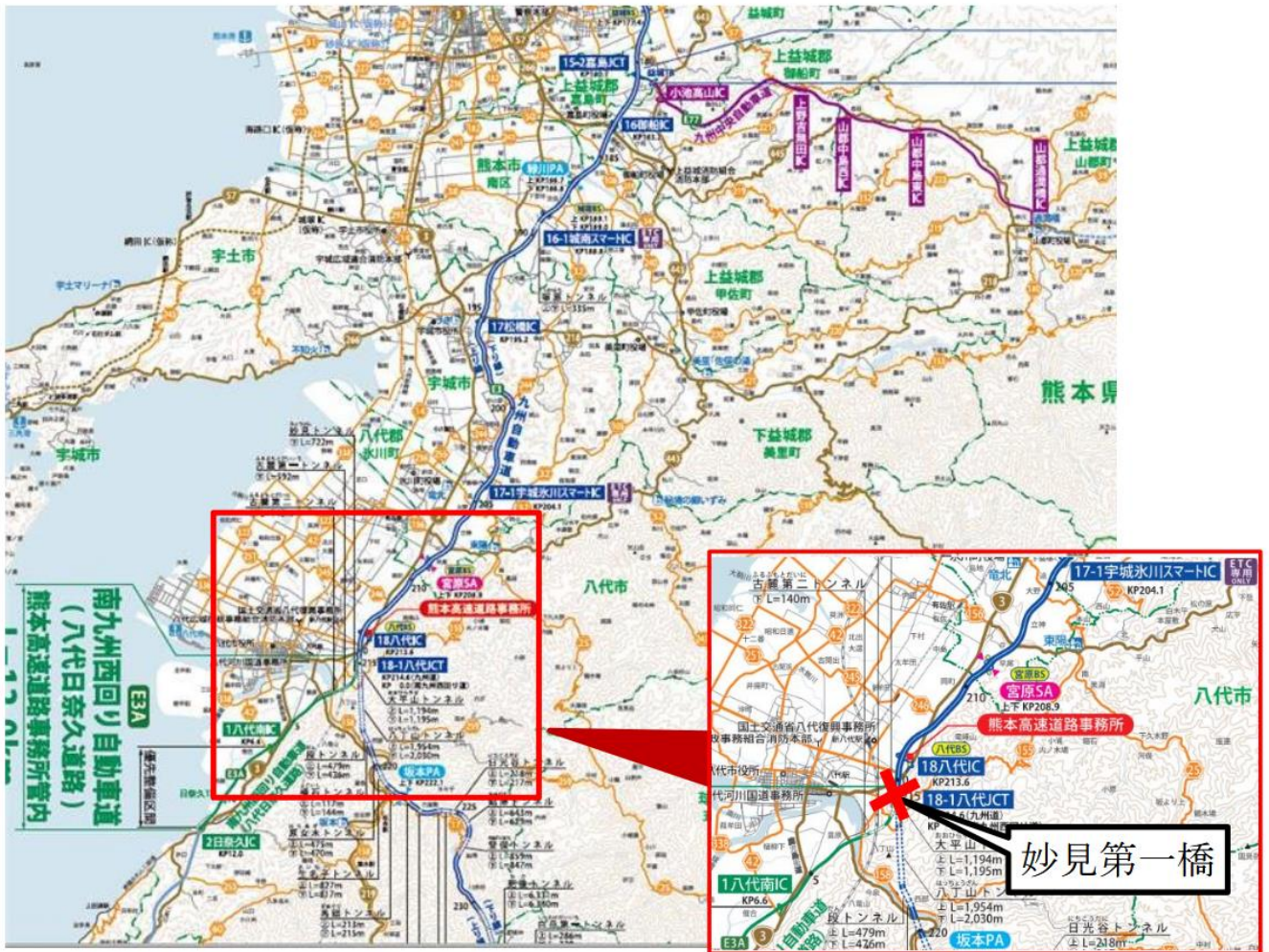
まつむら まさひで
松村 政秀
熊本大学
くまもと水循環・減災研究教育センター 教授

みたに やすひろ
三谷 泰浩
九州大学 工学研究院
附属アジア防災研究センター 教授

(○ 委員長)

(50音順、敬称略)

位置図



【参考】検討委員会開催状況



会議状況



現場確認状況